

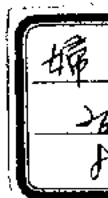
# 市民意識と労働組合

婦人の市民意識と労働組合

藤 林 敬 三

労働組合と地域共同社会

グラデイス・ダイッカソン



## はしがき

第三回婦人週間の記念行事の一つとして、婦人少年局では、四月十三日、東京日比谷公会堂で別掲のプログラムの通り、「市民意識と労働組合」の講演会を開催致しました。当日参加出来なかつた多くの方々のために、当日の二つの御講演の記録をまとめて刊行致します。

なお、講演者の一人、グラデイス・ディツカソン女史は、アメリカ合同服飾労働組合連合会の副会長で、日本における婦人の組合活動を援助するため、去る三月、三カ月間の予定で来朝された方です。

一九五一年五月

労働省婦人少年局

婦人市民意識と労働組合の講演会

日時 一九五一年四月十三日午後一時

場所 日比谷公会堂

主催 労働省婦人少年局

プログラム

開会の辞

谷野婦人労働課長

挨拶

山川婦人少年局長

講演

婦人の市民意識と労働組合

慶応大学教授

藤林敬三氏

労働組合と地域共同社会

アメリカ合同服飾  
労働連合会副会長

グラデイス・ディッカソン女史

質疑応答

グラデイス・ディッカソン女史

## 目次

|                   |   |
|-------------------|---|
| 婦人の市民意識と労働組合..... | 五 |
|-------------------|---|

慶応大学教授 藤 林 敬 三

|                  |    |
|------------------|----|
| 労働組合と地域共同社会..... | 一八 |
|------------------|----|

アメリカ合同服飾労働組合連合会副会長  
グラデイス・ディッカソン

## 婦人の市民意識と労働組合

慶応大学教授 藤 林 敬 三

これから「婦人の市民意識と労働組合」という題で、三十分足らずお話を申し上げます。時間に制限がございますので、掻いつまんで、簡単に、筋だけをお話せざるを得ないと思いますので、甚だお聴きにくいようなお話を申上げる結果になつて、恐縮だと思ひますが、予め、その点を御諒承願いたいと思ひます。

本日の催しは、第三回婦人週間の催しの一つとして、というわけであります。すでに第一回、第二回の婦人週間が行われて、今度は、第三回目の婦人週間であるということでございますが、前回の婦人週間におきましては、市民社会の一員としての御婦人の方々が、いろいろな意味において遅れておられる、あるいは又、封建的な雰囲気の中に、あまりにも入り込み過ぎておられるという点が指摘され、これに対して今回は、積極的に婦人の市民社会の一員としての意識の昂揚を図るというのが目的

だということでございます。しかし、私は率直に申しまして、御婦人が市民社会の一員として、立ち遅れをしているとか、あるいは封建的であるとか、市民意識の点において、劣つているとかいふようなことは、必ずしも申上げることではないのではないかと思います。と申しますのは、御婦人の問題を取り上げると、何かそれが、婦人だけの問題であるかの如くに考えられますけれども、実は御婦人だけの問題ではなく、私共男子もこれ等の点におきましては、全く同様であると申上げなければならぬのだと、私は考えておるのでございます。婦人だけが立ちおくれをしているとか、封建的だとか、市民意識の自覚がないということでは決してないのであります、その点は男子同様であつて、われわれ日本人としては、今日戦後の民主主義社会においてなお、お互にこれ等の点に大いに考えなければならぬ点があるのであります。

ところで、市民意識は、そのような意味におきましては、御婦人同様男子の問題でもあり、われわれ一般日本人の問題であるといつしまして、然らばわれわれは、どのような点で問題を考えるべきであるか、どういふことが、市民意識の昂揚になるか、これを次に考えて見なければなりません。この点に關しましては、この「婦人週刊の手引」を拜見いたしますと、いろいろなことが細かく列挙されておるのでございます。一つの例を申上げますと、「よい市民となるには近代的な個人の確立が必要

である」あるいは「他人に迷惑をかけるようなことをしてはならない」、あるいは「自分の言動には充分責任を持つて行かなければならない」、「他人の私生活にむやみに干渉してはならない」、その他いろいろなことが列記されているのでございます。これ等の事柄は、もとより、われわれ今日市民社会の一員といたしましては、互にこの社会をよりよきものにして行く為には、お互の生活をよくして行く為には、当然考慮に入れなければならない重要問題点であります。しかし、この際何よりも大事なことは、われわれ日本人が、男子と言わず、女子と言わず反省しまして、非常に大事なことは、社会的な意味における合理性に欠けているということではないだろうか、ということが私の根本的な考え方です。

われわれにとつて何よりも先ず大事なことは、社会的な合理性を貫徹することである。われわれはいろいろな意味において従来古い習慣、生活態度……日常生活の中には、いろいろ古いものが沢山残っております。それ等の古いものは、家庭生活においてはもとよりでございますが、一般市民社会における、あるいは地域社会における、あるいは又皆さんの職場々々における生活の中にも、なお依然として非常にたくさんございます。そしてこの古いものの残存のために、近代的な意味において民主主義的に合理的なものを考え、本当に社会的に合理的に行動しようと思つても、なかなかこれが出来

かねるのが事実であると申してよろしいわけでございます。だから私は市民意識の昂揚ということは先ずその合理的なものをわれわれが追及するということである、さらに言い換えれば近代でないもの——非近代的なもの、封建的なもの、あるいは、社会的な意味において、極めて近代的な意味において、不合理極まるものを一つずつわれわれは身にまといつてゐる衣から拭い去つて行くということが、取りも直さず市民意識の昂揚になると考えざるを得ないのであります。

極く瑣末な一、二の例を挙げて申して見ますと、例えば今日、あるいは今後益々われわれは、いろいろな面において、アメリカとの関係を非常に密接に保つて行かなければならない。それは今まで、戦後のわれわれの生活の中に、かなり——特別にその点を指摘しなくても——お互によく知り盡して来た点であります。そして何でもかんでもアメリカのものを真似さえすればそれでいいというようなところえわれわれは、今日行つてしまつてゐると思うのであります。ところが具体的な例で申しますと、例えば労働問題で考えますと、日本人の工場、会社における、あるいは官庁における職場での労働の仕方を、皆様お互のこととしてお考えになるとわかります。おそらくわれわれの日常やつております事柄は、アメリカ人が、アメリカでやつてゐることと、かなりかけ離れてゐると申してよろしいかと思ふのであります。向うの人々は、一日の作業時間が、例えば午前七時あるいは八時に始まる、

乃至は九時に始まるということになると、この時間が始まればキッチンと机に向つて仕事をして、一定の作業時間中は、ちゃんと仕事をしているというのが例であつて、したがつて、別段作業上の問題についてどう言わなくても、仕事は自ら出来て行くというのが普通の仕来りと思うのでありますが、私達の場合において、仕事をしているのかいないのか、非常にハッキリしないというような点がかなりある。いわば非常にルーズなやり方で仕事が行われる。これは会社と言わず工場と言わず官庁と言わず、いろいろなところでわれわれの見かける事実であると申してよろしいと思うのであります。私はある工場に、夕刻五時頃、丁度労働者の方々が、弁当箱を下げて帰る時間に参つたことがあります。私が工場の門に到着したのが正に五時五分前でありましたが、既に門のところで弁当箱を下けて三十人の方がいます。これは女子ではございません、男子労働者でございますが、――そうして五分ばかり待つて五時になると、タイムレコードをとつて門を出て行くという状況を実際見たことがあります。これは、五時までが作業時間だということから言へば極めて不合理な話で、極めて筋の通らない話で、いい加減にものをやつてゐるという以外にはないことであります。非常に簡単なことであります。これ程社会的に理窟の通つてないことはありませんでしょう。われわれの日常生活の中には、家庭でも一般社会でも又職場でも、この例に見られるような不合理さがあちらこちらにあると

いうことが、残念ではございますが、われわれ日本人の性格ではなからうかと思われるのであります。このような不合理さを一つずつわれわれが除つて行くことが、私達が今日わが国を文化国家に仕立て、わが国の民主主義を發展せしめ、わが国を近代化して行くという上において、是非われわれが心掛けて行かなければならないことであると、私は申してよろしいと思うのであります。

市民社会、市民意識というような問題を掲げますと、市民社会とは何であるか、市民とは何であるかという難しい理窟も出て参るのでありますが、理窟は一応理窟といたしまして、私はそういうような理窟に入る前に先ず基本的に大事なことは、瑣末なことではあるが、われわれの生活から前述のような社会的な不合理さを取り除くということから出発することです。特に今日の段階においては、すべての国民が、こういう点に充分心掛けて行かなければならない時であると私は考えます。したがつて私から言えば、そういう市民社会とは何であるか、市民とは何であるかというような問題から話を展開することは、頭だけが先に行き過ぎてゐる。いわば地につかない議論であると言わざるを得ない。そういう理窟なり議論なりは、いくらでもわれわれは机の上ですることは出来るわけでありませうけれども、そういう理窟をいくら言いましても、最も大事な現実の事態を正確に見定めることを棚にあげて置いては、議論は所詮から廻りであると言わなければならぬ。

ところで次に男子と女子の問題でございますが、女子はなるほど今日——戦争中以來、戦場に進出される範圍も増え、その人数もかなり増えつつあると言つてよろしいと思つてあります。戦争前に較べて著しい相違だと申してよろしいわけでございますが、しかし何と申しましてもこれは十年足らず位の傾向でございます。戦争前の例で言へば女子の職業戦線乃至は社会的な活動分野は男子に較べるとなお著しく狭いのであります。そこでやはり市民社会の一員としてのものの考え方なり行動というものが、女子よりは男子のほうにむしろ多くあつた。——今日もあると申して過言でないと思うのであります。——ところでそういう意味では、だから男子のほうで女子よりも市民意識においては稍々勝れている、女子のほうで稍々立ち遅れているというようなことが多少言えるかと思われるかも知れません。しかし、今日われわれの場合に、男子の市民意識たるや、なるほど男子は市民社会において政治的、経済的、産業的な、あるいは文化的なその他のいろいろな方面においての活躍が女子よりも多いのではございますが、しかし男子のわれわれがやつていることも、それは近代的な市民意識を充分持つてやつていゝるのでなくて、今日政界と言わず産業界と言わず、なおかなり封建的な、非近代的な、不合理千万なものの考え方なり、態度なり、行動なりがあります。新聞で御承知の通り、われわれは、例の埼玉縣の本庄事件が朝日新聞によつて叩かれて以後、最近の新聞では、新宿の風紀を

もう少しよくしなければならぬという記事があらわれたのは皆さん御承知の通りであります。そこに一体何があるか。社会的には極めて不合理千万な事実があると申さなければならぬ。これは非常に極端な例ではございますが、われわれ男子の市民社会における活動分野には、とかくこういつた封建的なボスのものがつきまとつてゐる。そこへ行きますと、むしろ市民社会の活動分野が、従来著しく男子に較べると制限された女子一般から言えば、婦人は第一には家庭婦人であるという今日の状況の御婦人のほうが、そういう市民社会における悪い風習に染つておられないという意味においては……家庭的なものの中にのみ埋没しておられる御婦人は、男子に較べるとたしかに一種の立ち遅れではあります。それは同時に、男子の持つてゐる汚染された姿が女子にはない。この点に御婦人の方々に大きな望みをかけなければならぬと私は考えるのでございます。

ところで戦争前には、なるほど御婦人の方々が、男子に較べると社会的な活動分野が非常に狭かつたのでございますが、戦争後は、例えば教育も完全に男女平等である。私などはもう三十年近く一つの学校に居るわけでございますが、最近——戦後になつて少しづつ女子学生が入つて来られる。このようなことはついこの間までわれわれの想像もし得なかつたことであります。段々、一年ずつ女子学生の数も増えて参りました、初めは多少危い感じがしないでもありませんでしたが、今日は、まだ

数は少ないが、男女学生は完全に平等で、われわれが見ましても、何の差別もないというところに行きつつあるように自ら感じているのでございます。このようにして、男子同様女子が同じ教育の過程をふまれたあげくには、やはり職業戦線におきましても、今後は益々男子と肩を並べて、同じような仕事をされる分野が増えて行く筈と考えられます。従来は男子のほうが活動分野が広がったのは事実でありまして、今後も女子が男子を凌駕するほど職業戦線に大いに活躍するようになるかどうか、むしろ問題であります。段々女子の分野が増えて行くことは事実である。このようにして女子の職業戦線において、女子の方々が先程申しましたように、悪い意味において汚染された意識なりの行動なりを持つていらつしやらない。その意味においては、はるかに純粋である御婦人の方々のものの考え方が、こういう非民主的な、あるいは封建的な、非近代的なものに汚染されないように、充分自覚を持つて社会的活動の分野に入つて行つて頂くことを、われわれとしては希望せざるを得ないし、そうすることによつて、女子に対してわれわれは、大きな期待をかけざるを得ないのであります。

四月末には市区町村長や市区町村会議員を選び、知事と都道府県会議員を選挙することになつておりますが、幸いにして、例年女子議員の方々が少しずつ出て来られた。私の住んでいる市におきましても、御婦人の議員が出られることを大いに希望しているのでございますが、その場合に男子の汚染

されたものを、御婦人の手によつて少しずつ改めて貰うように、御婦人によつて、男子の反省を促がすように御努力願いたいというのが、私の持つてゐる御婦人に対する期待であります。これをさらに一般に拡大して、各方面の御婦人の社会的活動について同様に希望されて然るべきであると思ふのであります。

さて、私の本日の話は「市民意識と労働組合」ということでございまして、今までほとんど労働組合の問題に一言もふれなかつたのでございますが、最後に一言御婦人の労働組合の問題についてふれておきたいと思ひます。私は、これは何も御婦人の場合ばかりでなく、男子も同様であります。ことに御婦人に対しては、御婦人の社会的活動分野におきまして、職場にある方が労働組合を結成され、労働組合の方に対しては、市民意識の昂揚に対して理窟のほうで難しいことを言うよりは、現実の問題といたしましては、この労働組合こそが、職場における御婦人が市民意識をハッキリ自覚して行き、非近代的なものをふり捨て、封建的なものを拭い去つて、近代社会の一員としての婦人が、自らをここで仕立てて行く、何よりの機会を提供するものであると考えざるを得ないのであります。ところで、私は時々労働組合に招かれ、又御婦人だけの組合の方々のところに行つてもお話をする機会も度々あつたのでありますが、非常に残念なことには——もちろん私の話は非常に砂を嚙むようで面

白くないことも事実でありますが、――御婦人の組合員としての状況は、残念ながらわれわれの期待を裏切ると認められるような場合が多いのでございます。御婦人は、何の為に労働組合があるのか、組合員である以上は先程申しましたように、組合が何であつて、労働組合員としてはどういふことを考え、どういふことをするのがいいのかということは、これは左程難しいこと許りではないと思うのであります。ところが實際を見てみると、労働組合が何の為にあるのか、何故自分が労働組合員であるのか、労働組合というのは極く少数の、お世話かいな世話役がやつていればいいのであつて、われわれ一般の者にはどうでもいいのであると言わんばかりの態度で一般大衆がいる。これは男子の場合にも亦同様であります。ことに年若き御婦人の方々が、こういう態度をお取りになる方が非常に多いと思います。やはり自分の関与しているものが、社会的にはどういふ意味を持つていて、どういふ工合に物事をやらなければならぬか。労働組合としてはどういふように行かなければならぬか、一組合員としてはどういふように組合の中でのことを考え、行動しなければならぬかといふことを、もう少しちゃんと考えて、日常の、その時々々の現状に即して、組合員としての言動をすることこそが、社会的な意味における合理性があることである。しかもこのことは、難しい理論を知らないではできないというのではなく、全くの常識で判断のつくことであります。それにも拘らず、自分が組合

員でありながら、組合などどこにあるかといわん許りの顔をする、こんな不合理千万なことではないのであります。こういうごとをやつていたのでは、いつまで経つても市民意識の昂揚ということはできるものではない。今日民主主義の発展を期待し、文化国家の建設を目標としつつ、これに向つて一切のこと柄を整えて行つても、人々が、右のような状態のまま、これに何の反省も加えようとしない限り、所詮一切の事柄は、ただ形式的に行われ、実質的には何をやつてゐるのかわけがわからんということになつて、依然として封建的な非近代的なものの中に自らを置いて顧みないという状態だけが残る。これでは何をやつてもやり甲斐がない。そこには停滞があつて、何の進歩もない。これではわれわれは一体前に向つて進もうとしてゐるのか、そこに止まろうとしてゐるのか、あるいは後に向つて歩いてゐるのかという疑問を出さざるを得ないことになるであらう。私達は絶えず前向きに進行しなければならぬ。一つのところに停滞してはならない。況んや後退してはならないのであります。もちろん歴史の歩みはそう急激には参りません。われわれが持つてゐる封建的なものをかなぐり捨てゐるには、かなりの時間が必要であります。しかし先ず第一に必要なことは、これをかなり長い間の努力を通して、われわれが必ず捨てなければならぬところの古いもの自体を、第一に明確に自覚することから始める必要がある。そういう意味におきまして、私は御婦人の市民社会の一員とし

ての自覚を期待中上げると同時に、このことにつきましては、男子も亦全く同様であることを、最後に附加えさせていただきます、私の下手なお話をこれで終りたいと思います。

(終り)

## 労働組合と地域共同社会

アメリカ合同服飾労働組合連合会副会長

グラデイス・ディッカソン

何というすばらしい会合を今日皆様がお持ちになつてゐることでございましょう。若しもこのような盛大な会合がアメリカにおいて開かれることができましたならば嬉しさのあまりどうしたらいいかわからないでしょう。又此処に美しいお花が飾られてありますけれども、このお花こそは今日のようにしてお集りになつていらつしやいます御婦人方、ただ今御丁重な御紹介の言葉を頂きました山川局長、その他今日の会合の爲にお付き下さいました女の方々を集めたように感じられます。残念ながら美しい日本の言葉が話せないのですけれども、通訳の足立が、私の思つておりますことを、できるだけ皆様にお伝えするように、お願いするわけでございます。

私この会合に参りまして、皆様と御一緒に婦人週間のお祝いに参加することができましたのを、本

当に嬉しく存じております。

今週の火曜日、私京都にありまして、圓山公園において開かれました京都の婦人週間の会合に出席して、皆様にお話することができました。ただに京都のみならず、この二週間に神戸、大阪、大津その他の都市を廻つて来たのでございますけれども、その間に工場の揭示板その他に、婦人週間の為のポスターが貼りつけてあるのを見ましたし、又組合の幹部の人達は、自分達のところでは、どのようにして婦人週間に参加するかということを、工場毎に、私にお話して下さいました。

近々四年を出でません間に——憲法において始めて婦人の参政権が認められてから今日、——この婦人週間というものが、その最初の参政権を記念する為に、すでに立派な制度になつておりますことは、非常に驚くべきことでございます。婦人週間の意義は、ただに日比谷公会堂において、このような盛大な会合が持たれているということだけでなく、又東京都内において、種々な会合が持たれているということだけでなく、実に日本全国に亘つて、いろいろな会合が、争つて婦人週間をお祝ひしているという、そこに意義があるのでございます。

若しこれらの会合が、ほんとうに日本の女性の要望に答えるものでありませんでしたならば、このように盛大には持ち得なかつたことでありましょう。これらの会合が開かれたということは、日本の

婦人が、憲法によつて、あるいは労働基準法、労働組合法その他諸法律によつて、婦人の地位がいかに守られ、いかに自分達が進歩したかということを、よく知つてゐることを表わしています。

私、日本を参りましてからまだ五週間でございます。その間に男女の組合の指導者の方々にお目にかかり、又工場を訪問致しまして、婦人組合員の末端に至るまで、活潑に組合の活動に参加することができるよう、日夜御苦心しておられるさまを見まして、非常な感銘を得ました。ことに又、その組合運動を通じて、婦人が自由を勝ち得、社会的の地位が進歩するように、ほんとうに努力しておられますさまを見て、心打たれた次第でございます。

先日、大阪府岸和田市において開かれました寄宿舎自治委員会全国大会に出席してお話しましたが、その全国大会に、四方から集つて来られた何百という若い婦人達が、ほんとうに生き生きとした興味を顔中にみなぎらせて、私のお話を聞いて下さいますのを見ました時、この寄宿舎の自治委員の全国大会が持たれるということになりましたのは、何という進歩を遂げたものだとその時に思いました。それから又、何万という人達が、自分達の住む寄宿舎の規則を、ただ経営者側から押しつけられるのではなく、自分達お互に話し合つて、立派な規則を拵え上げるようになったこと、それは何という進歩かと思ひました。

又、大津におきましても、ある工場を見学したのでありますが、その婦人労働者が、自分達の胸に、誇らしげに組合のマークをつけておられるのを見て、大変嬉しく存じました。日本の十年前の昔において、何人の労働者が、自分達の組合のマークを胸につけていたことでありましょうか。

また工場において、私のところの組合長は、今市会議員の候補者になつて、選挙運動をしておりますとか、組合の副組合長が、選挙に出ているとかいうことを伺いましたけれども、そのように労働者の為に、労働者の幸福の為に、地方選挙に打つて出ようという方が、男ばかりか女の人までもあるということ、それを組合員が、挙つて後援しているということ、それも日本の戦後において、僅かの間に成長した組合運動としては、まことにおどろくべきことであると思ひました。

戦後、日本の婦人の活動は、あらゆる方面において目覚ましい進出をしておりますけれども、とりわけ、婦人組合員の活動こそ、まことに注目し価すると思つております。このように、婦人が、諸方面に進出したしましたにつきましては、婦人少年局のお仕事も、今までどれほど貢献しているか知れません。

女の労働者が大方を占めております繊維産業において、働く男の組合の指導者達、又女の組合の指導者達は、時として、まことに落胆することがあるのではないかと想像されます。今の情勢におきまし

て、何故この繊維産業において、婦人組合員が、活躍にならないのであらうかと、手を拱いて嘆き悲しむこともできます。組合の活動においても、また寄宿舎の自治会の活動においても、全く経営者側からの支配を脱しきれないという、その状態を、嘆き悲しむこともできるわけもございます。それから又、偶々組合の代表者として選ばれる人達が、実際に、現場からの代表ではなく、ともすれば事務系、職長系、技術系の人達によつて、自分達の仲間が、代表されているという傾向におきまして、嘆き悲しむことができるわけでございます。それから又、組合の代表者になるはなつても、それは、決して組合大衆の幸福を図る為ではなく、ただ一個人の利益において、会社において、より高い地位を占める為か、あるいは政治的野望を満足させる為か、ともかく、一身の出世のふみ石として、組合指導者の地位を利用するような人達の為に、涙を流すこともできましょう。こういうふうな現状は、遺憾ながらまだあるわけでございますして、そのような缺陷に眼をつける時に、非常に心は痛むわけでございます。何故と申せば、これ等の人達のやり方は、ただに組合におけるところの、婦人組合運動の進歩を阻むのみならず、又組合全体の進歩を阻害しているからであります。けれどもいくら嘆き悲しんでも、それによつて私達は、何事も成就することはできないわけでございます。これまでで成し遂げたことを、正確に消化いたしましたして、とにかく、これだけは成し遂げたという喜びを持ち、又将来

におけるところの決意を固めますならば、自ら前途の道は開けると存じます。

アメリカにおきましては、婦人組合員は、何千人となくその職場において、あるいは苦情処理機関の職場委員となり、支部組合におけるところの執行部にも出ております。組合の役員にも出ています。組合の組合長、副組合長、書記長というような地位を占める女の人達の数も、まことに多いのでございます。それから又、組合内の活動部であるところの教育部、文化部、政治部等の部長を勤めている女の人達もあります。又自分の属する企業体での組合の県連合体の幹事になつている人達もございます。そうしてC・I・OとかA・F・Lとかいう強力な全国団体の幹部にまでも選出されてゐる女の人達がございます。私が副会長をしておりますアメリカ合同服飾労働組合連合会の全国大会を催します時に、その代議員として、全国から選出されて来る婦人の数は、何百に上つております。

これらの婦人代表者達は支部組合会議におきましても、府県連の会議におきましても、又、全国会議におきましても、あるいは苦情の処理の為に、あるいは新しい労働協約締結の為に、思うところを發表し、経営者側と交渉するのでございます。組合の集会におきましては、組合の幸福や福祉に関すること、組合としての政策に關しますことについて、存分に自分の意見を述べる為に發言するわけでございます。此処にお集りの皆様方の中には、今申しましたことを、皆様御自身すでにおやりになつて

いらつしやると存じます。又、今おやりになつてゐるわけでないけれども、これから仕事しようと思へば、充分お出来になる方々であると存じます。日本の婦人は、アメリカの婦人と同様の能力を持つてゐると思うのでありまして、皆様がやろうと決心なさるならば、必ずやアメリカの婦人が成し遂げたことは、お出来になると存じます。

アメリカの組合において婦人は組合員として又指導者としてまことに強力な重大な地位を占めてゐるわけでございます。この婦人の労働組合員の數に、ほんとうに匹敵しただけの割合で、指導者が選出されてゐるとは申しませんが、それは決して、婦人の地位を試す為の尺度にはならないのでございます。ほんとうに、その組合において、婦人が活動であるかないかということを試す尺度は、數ではなくして、例えば、お菓子の工場で、キャラメルを包んでいる人達、織機の前に立つて織つてゐる人など、現場の人々が、ほんとうに組合に関心を持ち、組合の活動は、自分達も男と同程度の給料を得る為には、どうしてもしなければならぬものだと思ふこと、又、有能な婦人労働者は、組合の代表に選ばれる等、その組合に興味を持つた人達のお集りであることが、最も大切なのでございます。一〇〇%までとは申しませんが、アメリカの労働組合におきましては、充分婦人組合員は、これ等のことに関心を持ち、活動してゐるわけでございます。

アメリカの婦人労働組合員の活動は、工場の仕事が終わったら、工場のドアを出れば止むわけなく、組合の会合においてのみ行われるものでもございません。婦人組合員は地方の福利厚生委員会にもつとめます。物価統制委員会や教育委員会にも委員となります。あるいは、YWCAや赤十字の協会の役員ともなります。そういうようにして、自分の住んでいる地域におけるところの自分達の生活を守り、幸福にする為の、いろいろの活動において、婦人組合員は、充分に活躍しているわけでございます。それから又、自分の子供を学校にやっている婦人組合員であれば、P・T・Aにも充分活躍するわけでございますし、住んでいる処が農村地帯でありますれば、農村婦人の団体の為にも、やはり一役買つて働くのでございます。

又、自分達のところから選出された議員の活動には、最も興味を持つて注視しているわけでございます。国会の議員が、自分の生活に最も深い関連のある法案について——児童福祉法についてもあるいは又自達の給料に関する法律についても、どういうふうな投票の仕方をするかということは、婦人組合員は、その属している組合の政治活動部から、いつも充分な情報を受けているわけでございます。このようにして、すでに選出された議員の投票ぶりはもちろん、今候補者として立っている人達も、これからの自分達に関する労働立法に対する投票の仕方につきましても、やはり関心を払つて、

正確な情報を得るわけでございます。このようにして、正しい知識を得ました後は、組合員は、女子であると男子であるとを問わず、屢々戸別訪問をしまして、何故その候補者が、勞働者の為になるかということ、説明に歩きます。又組合員は、選挙の為の大会の準備もいたしますし、自ら大会において、お話しします。又ラジオを通して、大衆に話しかけるわけでございます。このようにして、婦人は男子と同様に、立派に社会人として、その地域におけるだけでなく、国家としての人民の生活を決めることに、充分自分達もお手伝いをするわけでございます。そのようにして、私はアメリカの婦人こそが、最も忠実によい国法が守られ、さらに進歩した国法が作られるように、番犬の役をしていると思うのでございまして、私が、皆様に望みますところのものは、日本の婦人も、どうかして、今までのよい法律が、そのまま残りますよう、そうしてそれが、立派に行われて行きますよう、皆様も、この番犬の役をして頂きたいのでございます。

このように、今、盛んにアメリカで、婦人組合員が、活躍しておりますけれども、この現象は、決して一夜にして起つたものではないです。私は三年前に、ワシントンにおいて開かれた会合に出席しましたけれども、その会合と申しますのは、それより百年以前、婦人の先覚者が、男女同権を主張して、最初の会合を催しましてから、丁度百年目であつた。その記念すべき会合に、私も出席した

わけでございます。このように、百年前 婦人の先覚者達が、その運動を開始いたしました時には、婦人の労働者の地位は、まことに低く、その賃金は、搾取されており、又婦人は、男女共学の機会を持ちませんでした。そのような歴史を続けまして、約七十五年後の一九一八年に、アメリカの婦人は、参政権を獲得したのでございます。アメリカの労働組合が、今日の発達を遂げ、又婦人組合員の地位が、組合の中で認められ、今日婦人の組合員というものが、ただに組合においてのみならず、社会においても、さまざまな活動をなすようになりました。その蔭に、これ等の人達の血みどろの努力と、言いようないほどの忍耐というものが、ひそんでいるわけでございます。

皆様方も、今の指導者階級の女性の中に、際立つて立派な婦人の方、真に勇気を持つて組合の為に活動した婦人の方をお持ちでございます。皆様方は、このような先覚者が努力して下さつたその基盤の上に立つてお働きになるわけでございます。皆様方は、これ等先覚者が築いてくれたこの道に立つて、一步一步ふみしめて、前途への向上をお圖りになるわけでございます。皆様のおふみしめになります。まず一步は、あるいは、時によつて、少ししか前進しないこともございましょうし、又非常な苦しみと共に、やつと前へ進むこともございましょうけれども、その皆様の御努力は、まことに仕甲斐のあるものでございまして、皆様の御努力を通じて、男女の組合員の地位が、向上いたしますのみな

らず、これから、国家百年の繁栄を築く、そのもとになるわけでございます。

私が皆様をお願いしますのは、どうぞ、忍耐と勇氣と獻身の情をお捨てなさらず、これからも続けて頂きたいことでございます。もちろん、やりおせて甲斐のある仕事というものは、必ず努力を必要とするものでございます。その中には、度々、皆様が、落胆なさいますこともあると存じます。けれども、皆様の御努力によりまして、世界の各国が切望しておりますところの、平和への道が開けるわけでございます。

私は、この婦人週間というものを、皆様が、来る年、来る年、ずつと引き続いて、長くお持ちになることを希望いたします。假令、一年の中一週間ではありましても、みんなの眼が、婦人の社会におけるところの地位というものに注がれまして、みんなが、婦人の地位の進歩ということを、考えてくれるチャンスになることを、嬉しく思っております。皆様の日常のお仕事において、組合での活動において、毎週、毎週が、婦人週間であるおつもりで、御努力して頂きたいわけでございます。組合会議における婦人の活動と、その婦人の地位が社会的に認められるということは、いつも相伴つて起つて参りました。若しも、この百万以上に上ります婦人労働者が、その組合活動内において、真にデモクラシーの何であるかを覚えることができたらば、その活動を通しまして、社会全体におけると

ころの婦人の地位も、向上するわけでございます。

最後に、この婦人週間を記念いたしまして、皆様が成し遂げられました過去の業績に対しまして、御祝辞を申し上げますと同時に、今後、皆様の活動が、なお盛んになりまして、婦人の地位が、日本において、益々進歩いたしますよう、お祈り申し上げます。それから、私の代表しておりますアメリカの労働者——男子の労働者も女子の労働者も合せて——アメリカの労働者全部から、皆様の、この栄ある前途に対して、心からの御祝辞を呈します。

(終り)

## 質 疑 應 答

○問（役所勤務） 唯今のお話を伺いまして、疑問に思いましたことは、今日の会合が、非常に盛大に持たれているということを、ディッカソンさんがおつしやいましたが、私、婦人の地位の向上ということについて、こういうふうに考えております。それは、今、日本の社会で、最も下積みになっている不幸な婦人達が、解放されない限り、それはただ、表面のことであつて、ほんとうの婦人の地位の向上にはならないと思います。今日、このように、女の人達が沢山集つて、非常に盛大な会合が持たれておりますのに、こういう時に、自由労働者が、たつた四十圓の賃金さえ取れなくて、仕事につけなかつたり、まだまだ各職場では、苦しい仕事の量も多く、又、生理休暇も取れないという、苦しい仕事をして、会合にも出て来られないという職場があるわけです。そういうところに、ほんとうに婦人の問題が解決されない限り、婦人の地位の向上はないと思います。そういう点にふれられておりませんでしたので、お伺いしたいと思います。

○ディッカソン 唯今の御質問の方が、日雇労働者達までも含めて、同じように組合活動が盛んに

ならなければならないという御意見でありましたが、まことにその通りでございます。私が、アメリカの社会における婦人組合の活動を述べました時には、それは、単に組合指導者の活動を述べたわけではございません。さつき申しました通りに、菓子工場において、包装に従事している人達、あるいは衣服工場において、ほんとうにミシンをふんでおります、その現場の人達が、組合員としての活動を続けて、あのように社会に貢献しているということを申したわけでございまして、アメリカの突例では、決してそのような二、三の華々しい指導者の活動に終っているのではございません。それで、この二週間、地方を廻つて見ました時にも日本において、やはりそれと同様のことが、なされなければいけないのではないかと感じたのであります。すなわち、組合指導者が、ある一部の事務系、技術系の人達によつて左右されるのではなく、直接現場に仿っている人達からも充分な代表が出て、その組合の活動を通じて、日本の婦人も、婦人の地位の向上に活躍するようにならなければならないと思ふわけでございます。

○問（被服工場勤務） 唯今も発言がありましたように、私も、日本の婦人の方が団結する意味におきまして、一つの理想を、ディファクソン女史から頂いたお言葉の中から感じたのでございます。アメリカでは、非常に小さい部落におきましても、婦人の団体を持つているように存じますが、日本に

は、まだまだ各所におきまして、統一された団体の婦人の方達が、組織を持つということに、缺けていゝるということを感じます。これは、誰がそうして行くかということは、やはり私達が持たなければならぬと思いますが、何か一つ、例をお持ちになりましたら、具体的に教えて頂きたいと念願するものであります。

○ディッカソン 唯今頂きましたような、あゝいうハッキリした、明析な御質問をお出しになるということは、そういう御婦人達が、やはり将来の日本を担つてお働きになる証憑であると存じます。

御質問の要点でございますが、アメリカにおきましては、大きく結合した労働組合が、それよりは組織化されていゝない手工業、あるいは家内工業に仿く人達の為に、援助の手をさしのべまして、その人達の保護の法律の通過に努力しました。そうして、徐々に、その人達の賃金水準を、大労働組合に属してゐる労働者の程度にまで、引き上げたわけでございます。日本におきましては、なかなかその点、困難かと存じますけれども、唯今のような活潑な御婦人達の御努力によりまして、又よりよく組織化されましたところの労働組合員の努力を通じて、未だ恵まれざる未組織の小さなグループにまで、やがて恩恵が行きとどくことと確信しております。

○問（電気通信従業員組合） 日本では、いろいろ法律で、労働者を保護しておりますが、なか

かそれが守れない。現在、労務基準法も守られていない現実であります。先程の生理休暇のことも、賃金のこと、それを労務者が、徐々に自覚いたしまして、国会とか地方議会に陳情したり、デモ行進をしたりすると、現在の保守政党では、そういう法律を徐々に改悪して行くという動きがある。その点について、アメリカでは、そういうように、法律を守らないことがあるかどうか。又それを自覚して、労務者が、そういうことを、直して貰いたいというふうに働きかけて、上院、下院では、どういふふうな動きをなさっているか、それをお聞きしたい。その次には、ディッカソンさんのお話では、労務者が、職場の中に居るだけでなしに、家庭においても、活動しているというお話でありましたが、日本の現状においては、家庭生活と婦人運動が、両立しないということがあります。家事労働にしましても、相当オーバーワークになっているという状態であります。こういう点について、アメリカでは、家事労働の点と、労務婦人が、地域活動に入る為に、いかなる時間的余裕があつてやつていられるか。もう一つは、地域社会における婦人が活動する場合にも、経済的ゆとりがなければやれないと考へます。その点、アメリカの労務者は、どういふふうな賃金を頂いておられるか。例えば、日本の代表的婦人職業である電話交換手、紡績女工の賃金を教えて頂きたいというふうに思ひます。

○ディッカソン 最後の御質問から先にお答えいたします。ただいま列挙されました職種において、アメリカにおきましては、日本よりはるかに高い給料を得ております。それにはもちろん、アメリカの天然資源が豊かであるということが関係しております。やはり、一回の天然資源と他の経済的要素に応じたところの給料しか出せないものと思えますけれども、アメリカにおきましても、看護婦さんの例をとりますならば、十二時間制であつたのが、八時間制になりましたのは、近々十年のことでございます。アメリカでも、公務員であるところの人は、ストライキはいたしませんで、自分達の要求を貫徹させる為には、他の労働組合の援助を借ります。又先程申しましたように、その政治活動部の力を借りまして、自分達の為になるような議員の選出の為に、あるいは戸別訪問をしましたり、その他の活動によりまして、ほんとうに労働者——働く者の味方になつてくれる議員の選出に努力するわけでございます。労働基準法というものは、いつでも、それを一〇〇%完全に施行するということは、なかなかむずかしいわけでありまして、日本では、基準局の役人の努力を通じまして、先ず法が施行されているようでございます。又アメリカにおきましては、労働組合員が、ほんとうに自分達の労働基準法が施行されるように、常に監視しております。そして、一寸でも基準法を逸れたようなことがありましたら、その違反の例を直ちに申告して、労働組合員の力を通じて、労

偽基準法が、より完全に守られるように努力しているわけでございます。けれども、今のような性質の御質問は、假令、今完全に遂げませんでも、いつも、そのような御質問を保ち続けて下さいませ。そうして、一方において、たゆみなく御研究をお続け下さるならば、日本においても、より完全な時がもたらされと思います。

(以上)

## 市民意識と労働組合

昭和26年5月30日 印刷

昭和26年6月1日 発行

東京都千代田区大手町1の7

編集兼  
発行人 労働省婦人少年局

東京都中央区入舟町2の3

印刷所 永井印刷工業株式会社

